緒方川と緒方盆地の農村景観

保存活用計画

令和４年７月

豊後大野市

目　次

巻頭写真:「緒方川と緒方盆地の農村景観」 代表的な景観の紹介……1～11

第1章　保存活用計画策定の前提となる基本事項……1
第1節　計画策定に至る背景と目的……1
1　基本情報（豊後大野市と緒方川流域及び周辺地域の概要）
2　計画策定に至る経緯
3　計画策定の目的
第2節　計画の対象範囲……5
第3節　文化的景観の本質的価値……11
1　地形
2　地質
3　気候
4　植生
5　文化的景観を生み出すもの　～地形・地質を利用する人々の営みと歴史～
6　文化的景観の本質的価値
第4節　文化的景観を形成する構成要素……27
第5節　計画対象範囲における課題と方向性……42

第2章　保存・活用及び運営体制に関する基本方針及び計画……44
第1節　基本理念……44
第2節　保存に関する基本方針及び計画……46
1　盆地を形成する地形を基盤とする自然環境の保全
2　稲作を中心とした営みの結果として形成された土地利用の継承
3　緒方川と緒方盆地の農村景観を支える構成要素の保存
第3節　活用に関する基本方針及び計画……49
1　農業を生業として営む担い手の保護・育成
2　文化的景観の価値を理解し活かす担い手の確保・育成
3　交流人口、関係人口の確保と定住人口の拡大
4　拠点間の連携と文化的景観の情報発信と価値の共有
5　参考～既存の活用の主な取組～
第4節　運営体制に関する基本方針及び計画……54
1　地域住民と多様な主体の連携
2　行政内関係各課の連携
3　構成要素の管理者等の理解と協力
4　緒方川流域文化的景観保存活用協議会の設置
5　豊後大野市文化的景観専門委員会及び豊後大野市文化財保護審議会での審議

第３章　地域別の保存活用計画……57
１　緒方盆地地域
２　軸丸棚田地域
３　市街地地域

第４章　土地利用方針に関する事項……60
第１節　土地利用方針……60
第２節　重要な構成要素の滅失またはき損、現状変更等の届出……65
第３節　関係法令等と行為規制……67

第５章　文化的景観の重要な構成要素……86
１　重要な構成要素一覧及び位置図
２　重要な構成要素個票

第６章　整備、支援に関する事項……155
１　保存・活用につながる整備
２　対外的な PR のための整備
３　防災に関する整備

資料編……1
１　文化財保護法及び省令、関係通知（令和４年７月末時点）……1
２　豊後大野市景観計画による行為の規制……10
３　豊後大野市上位・関連計画における施策と文化的景観の位置付け……20
４　収集資料リスト……21
５　計画策定の体制……26
６　（参考）緒方盆地における井路開鑿技術の痕跡……27

はじめに－文化的景観がもたらす未来－

平成 17 年 3 月に三重町・清川村・緒方町・朝地町・大野町・千歳村・犬飼町の 5 町 2 村が合併して誕生しました豊後大野市では、大分県最長の河川である大野川が南西から北東に流れ、緒方川の支流で形成された段丘面では豊かな水資源を利用した稲作が盛んで、「原（はる）」と称される台地上には「大分の野菜畑」と称されるほどの畑作地帯が広がっています。

本市は、平成 25 年 9 月に日本ジオパークネットワークへの加盟が認定され、「おおいた豊後大野ジオパーク」として自然・地質遺産や歴史遺産を保全する取組を行っています。また、平成 29 年 6 月には、本市並びに大分県佐伯市、竹田市、宮崎県延岡市、高千穂町、日之影町の周辺 6 市町が祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに登録され、自然・地質遺産や歴史遺産とともに貴重な動植物群を守り、自然と人との共生を図る取組を行っているところです。さらに合併前の緒方町時代では、軸丸地区の棚田が「日本の棚田百選」に、緒方上井路・下井路が「日本疏水百選」に選ばれるなど、これまでも私たちのふるさとに連綿と受け継がれてきた自然や生活の上に成り立ってできた多くの財産が評価されてきました。

こうした背景を元に、大野川の支流である緒方川流域には、約 9 万年前の阿蘇火山の噴火で形成された大地から築かれた「原尻の滝」に代表される自然・地質遺産や、「緒方宮迫東・西石仏」や「辻河原石風呂」などの歴史遺産、広大な水田や棚田の景観形成に欠かせない「灌漑用井路」や「石造アーチ式石橋群」などが多数存在していることもあり、平成 27 年度から文化的景観保護推進事業にも取り組んでまいりました。

緒方川と緒方盆地の農村景観保存活用計画は、長い年月を経て築かれた当該地域の文化的景観の価値を市内外の人々と共有し、今後も長きにわたって「守り活かし受け継いでいく」指針をまとめたものです。今後も本市が目指す「持続可能なまちづくり」の推進とともに、美しい文化的景観の保全・形成を図りながら、ジオパークやエコパーク活動とともに、地域への誇りと愛着を持てるように取組を進めてまいります。

結びに、本計画の策定にご尽力をいただきました別府大学の飯沼賢司先生を始め、貴重なご意見、ご提言をいただきました文化庁及び大分県教育庁文化課の皆様並びに策定委員会の皆様のご支援に心より感謝とお礼を申し上げます。

令和 4 年 7 月

豊後大野市長　川野　文敏

例　言

１．本計画は、「緒方川と緒方盆地の農村景観」を保存活用するため、文化財保護行政担当部局が取り組むべき方針及び計画をまとめたものである。

２．本計画は、平成 27 年度から令和 2 年度まで行った調査研究結果をまとめた以下の調査報告書をベースに計画したものである。

・豊後大野市教育委員会編 2021『大分県豊後大野市文化的景観保護推進事業調査報告書「緒方川と緒方盆地の農村景観～水と石が織りなす暮らしの風景～」』

３．本報告書本文中で使用する用語については、以下の解釈とする。

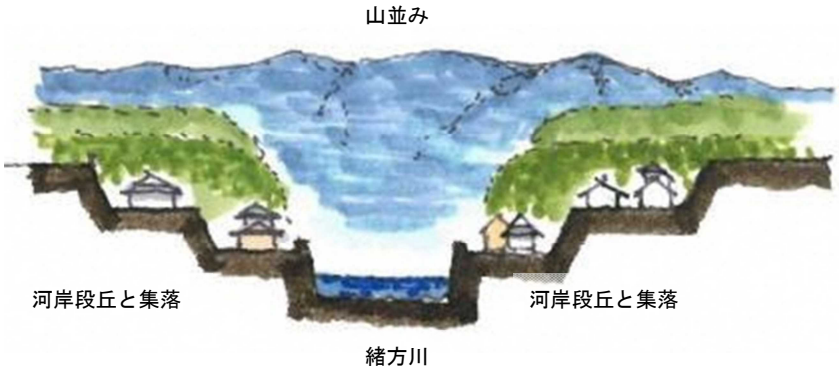
緒方川流域	緒方川及び緒方川の支流（軸丸川や徳田川など）を含む本計画対象範囲内を流れる河川の呼称。
緒方盆地	選定範囲において、盆地上の地形をなす緒方川両岸の低地、水利の面、地形的な面、農耕民俗文化の面、歴史的な面も含め、一体的に捉える必要のある軸丸地域、草深野地域も含めた総称。 なお、緒方盆地に地域を付記した場合は、緒方川右岸及び左岸に広がる水田地帯、市街地を除く集落並びに軸丸地区を除く丘陵地帯を指す呼称。
軸丸棚田	軸丸川、大久保川（黒土甲川）流域の「古田」並びに富士緒井路通水に伴い畑地から田に転換された「新田」がある「日本の棚田百選」にも選定されている軸丸地区を指す呼称。
市街地	JR 緒方駅を中心に半径約 800m 内の官公庁、金融機関、学校などが集中している地域を指す呼称。
地域	上記「緒方盆地」「軸丸棚田」「市街地」など広い範囲を示す。
地区	大字もしくは行政区を示す。
集落	小字もしくは行政区内の小組合等を示す。
大久保川（黒土甲川）	これまでの調査研究では、地元でも使われている「黒土甲川」としてきたが、河川管理台帳上は「大久保川」であることが判明したため、表記を「大久保川（黒土甲川）」としている。
井路群	緒方川左岸域を流れる 5 本の井路と右岸域を流れる 10 本の井路をひとまとめにしたもの。
井路網	井路が網の目のように田に水を流している様を表わしたもの。
開鑿	山野を切り開いて新しく道や運河を通すという意味で、「開削」とも書くが、井路を造るにあたり、先人の苦労や困難な状況で成し遂げたことを示すため、難しい「鑿」をあえて使用している。

「緒方川と緒方盆地の農村景観」　代表的な景観の紹介

本地域の文化的景観を図示すると、主に以下のような特徴がある。
文化的景観保存活用計画の冒頭として、特徴ある本地域の景観を次ページ以降に掲載する。

水田（農作業）、集落、里山、遠景に祖母傾山系という奥行きのある景観

緒方川両岸の河岸段丘上に集落がありその奥に山並みが見える景観



農地、井路、家屋、里山と連なる景観

◎水田（農作業）、集落、里山、遠景に祖母傾山系という奥行きのある景観

田植え風景と山並み（緒方町下自在）

〔説明〕近景に水田、中景に里山、遠景に傾山系という奥行きのある配置が美しい景観をつくる。

◎緒方川両岸の河岸段丘上に集落があり、その奥に山並みが見える景観

祖母傾山系と緒方川（緒方町野尻）

〔説明〕緒方町野尻地区と清川町天神地区の間を流れる緒方川と遠景には祖母傾山系がそびえる。緒方川沿いには竹田市につながる国道 502 号が通り、清川町と緒方町の町境に差し掛かる場所で見ることができる緒方の特徴でもある景観。

◎農地、井路、家屋、里山と連なる景観

水田・集落と棚田、里山の眺め（緒方町原尻）

〔説明〕原尻地区の対岸にある辻地区から、緒方川を挟んだ原尻の圃場・家並み・棚田・里山を遠望した。上緒方地域から県道緒方高千穂線を緒方町市街地方面に向かうと、緒方盆地の眺望が開ける。それまでの山間の景観から、開けた眺望が突然目に飛び込んでくるので強く印象に残る。

軸丸北地区東集落の棚田（緒方町軸丸）

〔説明〕県道緒方朝地線沿いにある軸丸北ライスセンターのそばで見ることができる眺望。近景に古田・新田、中景に新田、遠景に傾山系が見える。軸丸川を水源とする古田と富士緒井路通水により水田化された新田を同時に見ることができる場所である。

◎春に見られる景観

麦穂の実り（緒方町井上）

〔説明〕稲刈り後に播種された麦は、冬を越し、4 月の風で穂を揺らす。梅雨前には黄金色になり、一斉に刈取りが行われる。国道 502 号から見ることのできる圃場の麦穂の列、中景の家並み、背景の里山の対比が井上地区の景観を特徴づけている。

◎夏に見られる景観

水田と遠景の山々（緒方町上自在）

〔説明〕本格的な夏を迎える前の水田。手前に広がる水田と対比する形で、彼方の祖母傾山系が奥行き感を与え、青空が水面に映え美しい景観をつくる。また、空中には眺めを遮るものがないため、開放感のある景観となっている。

◎秋に見られる景観

圃場と家並み・里山（緒方町井上）

〔説明〕国道 502 号の歩道沿いにはヒガンバナが植えられ、圃場の縁を彩る。圃場には水稲や大豆が植えられ、晴れた日は色鮮やかなコントラストを眺望できる。

◎冬に見られる景観

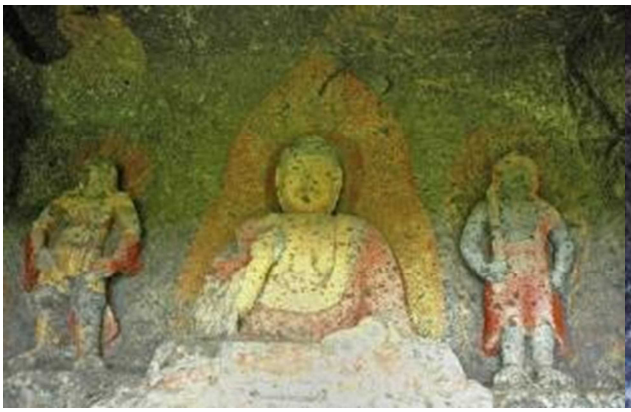
朝霧に覆われる田んぼ（緒方町下自在）

〔説明〕10 月末から 12 月にかけて、緒方盆地では朝、濃霧で覆われることが度々ある。夜間に気温が急激に低下すると、緒方川から立ち上った蒸気が霧になり盆地を覆う。緒方盆地の冬の風物詩である。

◎「石造文化」を示す景観

国指定史跡　緒方宮迫東石仏・緒方宮迫西石仏（緒方町久土知）

〔説明〕約 9 万年前の阿蘇火山から流れ出た火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩に彫り込まれた緒方宮迫東石仏・緒方宮迫西石仏。いずれも平安末期、緒方荘を支配した武将、緒方三郎惟栄の造立と推定される。



緒方宮迫東石仏

緒方宮迫西石仏

◎「農耕民俗文化の継承」を示す景観

緒方三社川越し祭り（緒方町上自在、原尻、久土知）

〔説明〕毎年旧暦 10 月 15 日頃に行われる祭り。三宮八幡社の祭神神功皇后の乗った神輿が、緒方川を渡り、一宮八幡社の祭神仲哀天皇（夫）と二宮八幡社の祭神応神天皇（子）のもとに集う祭り。緒方上井路・緒方下井路の水の恵みと豊作に感謝する祭礼でもある。

神輿を担いで川を渡る若い衆

◎「土地利用の変遷」を示す景観

丘陵地際に並び立つ家並み（緒方町井上）

〔説明〕江戸時代に緒方上井路がつくられ、家屋は藩主の命により緒方上井路よりも山側に移ることになる。水田、井路、集落、里山と連なる景観は、水田開発の歴史の中、土地利用を求められた景観である。

◎「変わらずに残る代々受け継がれた土地」とわかる景観

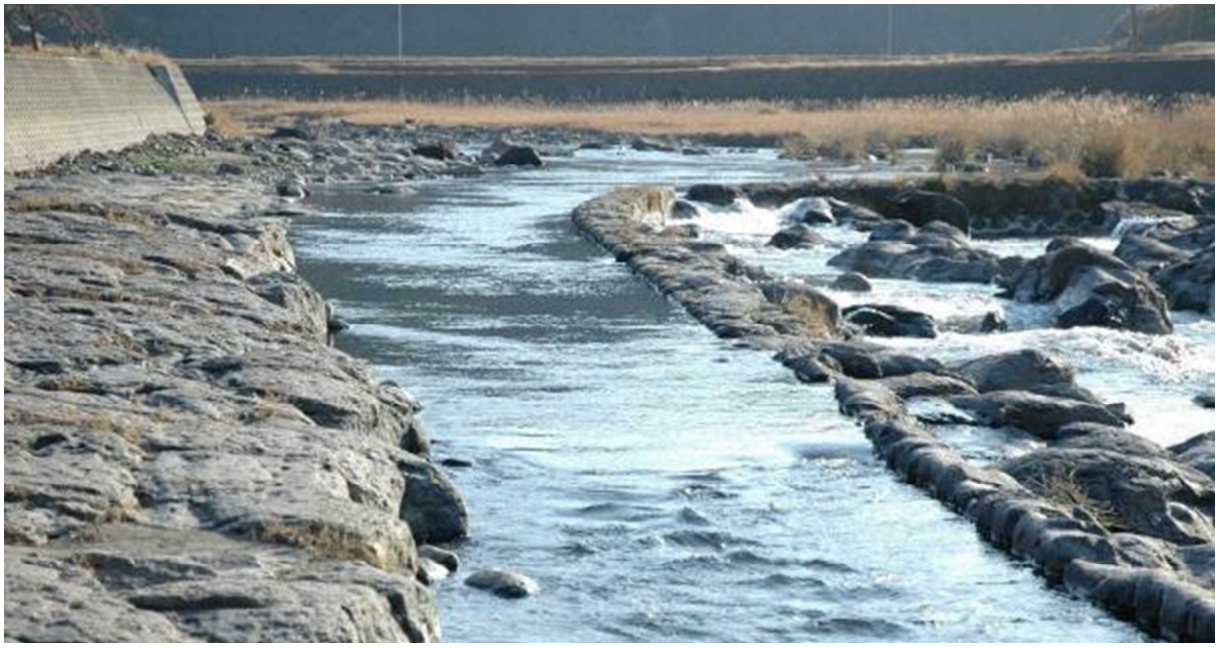
平瀬集落の水田景観（緒方町上年野）

〔説明〕上年野地区平瀬集落の水田は、平瀬井路によって灌漑される。平瀬井路の開鑿年は不詳であるが、対岸の圃場を潤し堰堤を共有する広瀬井路が、寛文年間の開鑿と伝えられていることから、平瀬井路の開鑿も同時期と推定される。平瀬集落の水田の筆形状は、明治 22 年（1889）に作製された字図とほとんど変わっておらず、江戸期の水田形状を今に伝えている可能性が高い貴重な圃場である。

◎「土木技術の近代化」を示す景観

三区（野仲）井路の取水口（緒方町原尻）

〔説明〕緒方川右岸の圃場を潤す三区（野仲）井路の取水口（堰堤）と掘り割り。明治時代に凝灰岩を掘り割って井路を改修した。掘り割るための長鑿の痕跡が残り、明治時代の開鑿技術、地形地質を理解した人々の営みが見て取れる。



◎「交通の近代化」を示す景観

原尻橋（緒方町原尻）

〔説明〕大正 12 年（1923）に完成した原尻橋は、豊肥線鉄道の開通が建設の契機となった。阿蘇火山から流れ出た火砕流が固まってできた溶結凝灰岩の河床の上に、同じ溶結凝灰岩を積み上げて堅牢な石橋を造っている。自然の素材を利用する人々の叡智が窺える。緒方川流域の交通の近代化を象徴し、また緒方川の景観を特徴づけている建造物である。

◎「人々の生活の営み」が垣間見える景観

緒方上井路沿いの風景（緒方町下自在）

〔説明〕緒方上井路沿いには多くの柿が植えられている。弘法大師像も点々とあり、上井路沿いの景観を特徴づけている。

緒方上井路の灌漑用水車（緒方町下自在）

〔説明〕緒方上井路にある現存する唯一の実用水車。汲み上げた水が逆サイフォン構造によって井路よりも高い場所にある水田へと給水される。

井路沿いにあるクンバ（汲み場）（緒方町下自在）

〔説明〕緒方上井路の民家側に造られた掘込階段式のクンバ。周囲には花が植えられ、現在も農作業等で使った道具を洗う風景などを見ることができる。

今なお残るオトシゴンヤ（緒方町野尻）

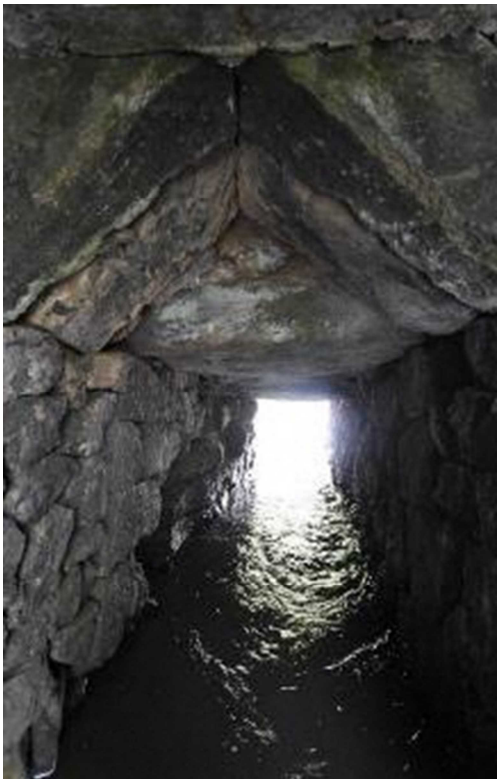
〔説明〕現在は牛舎はなく、居住空間に変わっているが、堆肥を生産、貯蔵していた跡はそのまま残っており、倉庫や車庫として使用している。

◎「大地の形成」がわかる景観

原尻の滝（緒方町原尻）

〔説明〕原尻の滝は馬蹄形をなし、弧の部分は約 120m、高さは約 20m である。阿蘇火山の噴火で噴出した火砕流が冷えて固まり、溶結凝灰岩となったあと、「柱状節理」と呼ばれる縦方向の亀裂が水流によって広がって崩落し、垂直の崖を形成している。滝周辺では、毎年旧暦の 10 月 15 日頃に緒方三社川越し祭りが行われ、自然地形と人々の信仰が密接に結びついた滝である。

◎「水と石が融合した」ことがわかる景観

富士緒井路の隧道（緒方町軸丸）（左）、緒方上井路の石樋（緒方町上自在）（右）

〔説明〕緒方川流域の水田を潤す井路群は、大野川や緒方川の上流から取水しており、多くの隧道や石樋が築かれている。凝灰岩を穿ち隧道を造り、はたまた凝灰岩を整形した石材で石樋や石橋を造り、井路を構築している。まさに水と石が織りなす景観である。